

江東区生物多様性地域戦略

水と緑、過去と未来、生きものと人がつながる
持続的な自然共生社会を目指して！

【概要版】

小学校
ポケット
エコスペース



ポケットエコスペース

区立公園や小学校等にある小規模な「ビオトープ」です。様々な生きものの生息・生育場所となっています。

オタマジャクシ
(ヒキガエル)



チョウトンボ



親水公園

水に親しみながら遊べるよう、水路を設けた公園です。もともとの川を埋め立てて整備しており、自然の川の水を導水しているため、魚類をはじめとする水生生物が多く見られます。

カワセミ



シモフリシマハゼ



横十間川
親水公園



江東区
観光キャラクター
コトミちゃん

皆さんは、江東区にどんな生きものや自然があるかご存じですか？
身近な場所でも、たくさんの生きものが棲んでいます。
私たち一人ひとりの取組が、自然や生きものを守る力になります。
一緒に、自然とともに生きる豊かなまちをつくりましょう！



1 本戦略策定の目的

「生物多様性地域戦略」とは、生物多様性基本法に基づき地方公共団体が策定する、生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画です。

江東区では、生物多様性を保全し、次世代へ確実に引き継ぐため、また、生物多様性がもたらす恩恵による区民のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）の一層の向上を図るため、現在、直面しているさまざまな課題に対応し、持続可能で魅力あるまちづくりを進めていきます。

その実現に向け、2050年の将来像と2030年の目標を掲げた「江東区生物多様性地域戦略」を策定します。

2 生物多様性とは

【様々な生きものが存在し、全ての生きものがつながっていること】

「生物多様性」とは、様々な種類の生きものがそれぞれの個性や役割を持ちながら、互いに関わり合い存在していることを指します。また、生きものが生きていくためには、それぞれに適した環境が必要であり、多様な生きものとともに、多様な環境が存在することも重要です。生物多様性は、主に「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」の3つの視点から考えられています。



江東区の生物多様性



1 江東区の地理的特徴と生態系

江東区は、東京湾に面し、荒川、隅田川に囲まれた低地です。江戸期は湿地や干潟が広がり農業や漁業、木材業が盛んでしたが、明治期以降の埋立により、工業化・宅地化が進みました。

区内では2,500種以上の多様な生きものが水辺や緑地で確認されており、周辺の陸地や区を囲むように流れる河川・運河、海を通じて移動しています。これらの自然を5つの生態系タイプに分類しました。

分類	概要	代表的な場所
ア 都市樹林地生態系タイプ	公園や街路樹等、植栽由来の都市緑地の生態系タイプ	猿江恩賜公園、海の森公園、若洲海浜公園、仙台堀川公園、富岡八幡宮、北砂五丁目団地等
イ 草地・自然裸地生態系タイプ	公園等に植えられた芝生環境等を含む草地・自然裸地の生態系タイプ	荒川河川敷、海の森公園、東京臨海広域防災公園、若洲海浜公園、辰巳の森緑道公園 等
ウ 水辺生態系タイプ	江東区の大さな特徴の一つである水辺を対象とした生態系タイプ	荒川、隅田川、旧中川、仙台堀川、横十間川、新砂干潟、若洲海浜公園人工磯 等
エ 都市・住宅地生態系タイプ	建築物の屋上緑地を代表する都市型の生態系タイプ	江東区役所等の公共施設・民間施設、建築物の屋上緑地 等
オ 自然再生・教育利用型生態系タイプ	ポケットエコスペースや企業緑地等の自然再生を目的に創出される生態系タイプ	各ポケットエコスペース、企業緑地（再生の杜、木場千年の森、NOVARE）、武蔵野大学等



ミゾコウジュ

アオサギ

アズマヒキガエル

香取小学校
ポケットエコスペース

旧中川水辺公園

【5大エリア】
①横十間川親水公園／
仙台堀川公園エリア

【5大エリア】
④猿江恩賜公園エリア

マハゼ

仙台堀川公園
ポケットエコスペース

【5大エリア】
②荒川・砂町水辺
公園河口エリア

富岡八幡宮
クゲヌマラン

荒川・河川敷

【5大エリア】
③富岡神社仏閣
企業緑地エリア

木場千年の森
((株)フジクラ)

ウラギク

カワセミ

新砂干潟

再生の杜
(清水建設(株))

辰巳の森緑道公園

シオカラトンボ

アオダイショウ

ヤマトオサガニ

武蔵野大学

【5大エリア】
⑤若洲海浜公園／
若洲公園

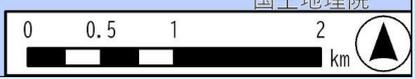
ニホンカナヘビ

若洲海浜公園

キョウジョシギ

海の森公園

- 凡例
- ポケットエコスペース
(幼稚園、小学校、公園、
えこっくる江東)
 - 公園 (区立・都立)
 - 樹木 (屋上緑化含む)
 - 草地 (屋上緑化含む)
 - 生きものと人がつながる
生物多様性5大エリア





2 江東区における生物多様性の4つの恵み（生態系サービス）

私たちの暮らしは、生物多様性によってもたらされる4つの恵み（生態系サービス）によって支えられています。また、江戸期の食や花見の文化は、区の特徴として現代に受け継がれています。

江戸期から続く花文化や、区民農園、釣り等、様々な活動が行われています。

文化や歴史を育む恵み （文化的サービス）



花文化

【出典】一般社団法人江東区観光協会ウェブサイト「江東おでかけ情報局」



区民農園

【出典】夢の島区民農園ウェブサイト

食料や資源をもたらす恵み （供給サービス）



深川めし

【出典】一般社団法人江東区観光協会ウェブサイト「江東おでかけ情報局「深川めし」」



江戸東京野菜

【出典】東京都農業協同組合中央会写真提供

安心・安全を支える恵み （調整サービス）



壁面緑化

【出典】江東区「江東区みどりの基本計画（後期）」（令和7（2025）年3月）



防災公園

【出典】アメニス東部地区グループウェブサイト「TOKYO EAST PARK「大島小松川公園」」

江戸期から「江戸前の食」や木材として人々の暮らしを支えてきました。

ヒートアイランド現象の緩和や災害時の避難場所として、私たちの暮らしを守っています。

酸素供給、気温・湿度調節、水・栄養分の循環、土壌形成

生存基盤としての恵み（基盤サービス）

全ての生きものにとって欠かせないものであり、3つの生態系サービスの土台となっています。

生物多様性が失われるとどうなるの？

食料や衣服、燃料等がなくなる

私たちの生活に必要な食料や衣服、医薬品、木材、燃料等は、ほとんどが生物多様性の恵みから成り立っており、これらが失われてしまうと生きていくことができません。

自然災害が増える、地球温暖化が更に進む

江東区は荒川や隅田川の河口にある低地のため、上流域の森林や水田がなくなると、水害等の自然災害が今よりも多く発生する可能性があり、深刻な被害が心配されます。

江東区の文化や特色が失われる

江東区には江戸東京野菜や深川めし、各地にある花の名所等、生物多様性の恵みである様々な文化がありますが、生物多様性が失われるとこれらの区の特徴も失われます。

その他、生態系のバランスが崩れる、感染症が拡大する、医薬品の開発ができなくなる・・・等





3 江東区における生物多様性の課題

江東区では、様々な要因によって区内の生物多様性が危機にさらされています。また、区内にある自然との共生における課題もある他、私たちの暮らしが遠い地域の生態系に影響している可能性もあります。

江東区の生物多様性

生物多様性の4つの危機

第1の危機

開発や乱獲等により、
自然環境が破壊されること

第2の危機

人が自然環境を利用しなくなったこと
により、生態系のバランスが崩れること

第3の危機

人が持ち込んだものにより、
生きものの生息・生育が脅かされること

第4の危機

地球環境の変化により、
生きものの生息・生育環境が変化すること

江東区の現状

江戸期に広がっていた干潟や湿地の自然は、明治期以降の埋立により、今では区内にほとんど残されていません。

区を代表する身近な自然のポケットエコスペースは、維持管理の人手不足や施設の老朽化が問題となっています。

区内で確認されている特定外来生物や、荒川・東京湾等に流れ着いたごみが、生きものに悪影響を及ぼしています。

近年、地球温暖化の深刻化により、気温や水温が上昇することで、生きものの生息・生育環境が変化しています。



私たちの暮らし

自然共生の課題

生態系ディスサービス

生きものにより、人にとって望ましくない影響がもたらされること

江東区の現状

住環境に棲むウミネコやカワウ、サギ類等のフンやにおい、鳴き声により、区民の生活に影響が生じています。

江東区外の生物多様性

間接的な影響

テレカップリング

都市に住む人々の消費活動が、遠く離れた地域の自然や生きものに影響を与えること

江東区の現状

日々の生活で消費する資源の大半を区外に依存しているため、その生産地の自然や生きものに影響を及ぼしている可能性があります。



【江東区】
コーヒーや
チョコレートの
消費



【遠く離れた地域】
コーヒー豆・カカオ豆
の栽培や加工場の開発
による生態系への影響

外来種の脅威

江東区は、荒川や隅田川の下流にあり河川の上流から生きものが移動してきます。また、港湾において多くの船が往来しています。これらのことから、外来種が侵入するリスクが高い立地となっています。更には、外来種のペットが逃げ出したり、元々その地域にいない街路樹や園芸種等の植物が拡散してしまうこともあります。

外来種には、元々いる生きものや私たちの生活に影響を及ぼす生きものがいます。これらの生きものは外来生物法により「特定外来生物」に指定されており、飼養・栽培・運搬等を規制し防除等が行われています。区内では17種の特定外来生物が確認されています。

- クビアカツヤカミキリ：幼虫がサクラ等の木の中を食べて枯らす
- アメリカザリガニ：池の水草や水生生物を食べ尽くす

特定外来生物（確認環境）



ブルーギル
(河川・運河)



アメリカザリガニ
(ポケットエコスペース)



ナガエツルノゲイトウ
(荒川・旧中川)



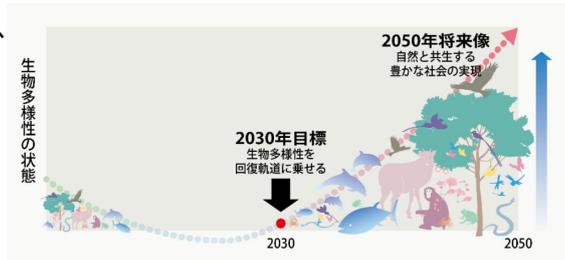
クビアカツヤカミキリ
(サクラ等の樹木)



1 世界と日本、東京都の動向

生物多様性の危機は、江東区や東京都、日本だけではなく、世界全体で注目されている重要な課題です。

令和4（2022）年、生物多様性に関する世界目標が掲げられました。それを踏まえ、令和5（2023）年に日本や東京都においても同様の将来像や目標が掲げられています。



2050年将来像：自然と共生する社会の実現

2030年目標：ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現
(生物多様性を回復軌道に乗せること)

東京都：ネイチャーポジティブの実現のイメージ

【出典】東京都「東京都生物多様性地域戦略」（令和5（2023）年4月）
※「A Nature-Positive World: the Global Goal for Nature, Naturepositive」（Locke et al., 2021）」作成の図を基に東京都が加工した図を引用

2 江東区が目指す自然共生社会の実現に向けて

世界や日本、東京都の動向を踏まえ、江東区は以下の2050年将来像と2030年目標を掲げます。

令和32（2050）年：自然共生社会の実現を目指します

5大エリア

令和12（2030）年：ネイチャーポジティブの実現を目指します

3つの基本目標

令和 8（2026）年：江東区の生物多様性は危機に直面しています

（本戦略の計画期間：令和8（2026）年度～令和17（2035）年度）

※2030年以降は世界目標や国家戦略、東京都戦略の改定を踏まえ、見直しをしていく予定です。

基本目標Ⅰ 守り、育てる

生物多様性のつながりや魅力を守り、生きものと人が共生しながら、江東区のかげがえのない水と緑のまちを育てる

基本目標Ⅱ 活かし、つなぐ

生物多様性の恵みや自然の働きを大切に活かし、江東区の歴史と文化を未来につなぐ

基本目標Ⅲ 知って、変わる

生物多様性の価値や大切さを知って、こどもから大人まで協力しながら、地球環境に配慮する行動に変わる

2030年
ネイチャー
ポジティブ
実現

【現在】
江東区の生物多様性は
危機に直面しています。

2030年目標の達成に向けた具体的な江東区の取組は、8ページに記載しています。

【2050年将来像】

水と緑、過去と未来、生きもの与人がつながる持続的な自然共生社会

自然共生社会

豊かな自然や生物多様性の維持・回復と持続可能な利用※が実現するとともに、それらがもたらす恵みを将来にわたって継承していく社会です。

※生物多様性の恵みを将来にわたって享受できるよう、生物多様性の長期的な減少をもたらさない範囲で、自然資源を計画的に管理・活用し、生物多様性の保全と人々の生活や経済活動を両立し続ける取組

ポケットエコスペースを活かした環境教育

江戸前の食や花の名所等の歴史・文化を活かした自然体験の推進

区民参加型生きもの調査

生態系サービスへの対策

樹林地や草地の保全や創出

区民農園での農業体験の推進

在来種（元々いる生きもの）の保全

区内外の多様な主体の連携・協働

生きもの与人がつながる水辺の保全や創出

藻場や干潟の保全や創出

外来種の防除

生物多様性の保全や持続的な利用に関する普及啓発

生きもの与人がつながる生物多様性5大エリア

江東区を代表する特徴的な環境や活動している団体の有無、今ある取組の将来的な発展の可能性を踏まえて、特に重要なエリアを5か所選定しました。

①横十間川親水公園／仙台堀川公園エリア

区中央に位置し、縦横に流れる親水公園や希少種の保護区のポケットエコスペース等があります。

②荒川・砂町水辺公園河口エリア

区東側の荒川河口部に位置し、上流域からつながる荒川河川敷と区唯一の新砂干潟等があります。

③富岡神社仏閣／企業緑地エリア

区西側の隅田川河口部に位置し、歴史的な富岡八幡宮の社寺林や、先進的な企業緑地等があります。

④猿江恩賜公園エリア

区北側に位置し、生物多様性に配慮した公園管理が行われている他、科学技術高校をはじめ、様々な主体との取組連携があります。

⑤若洲海浜公園／若洲公園エリア

区南側に位置し、東京湾に面した人工磯や広大な草地、釣りや、キャンプ等の自然体験の場です。



1 2030年目標と評価指標

基本目標Ⅰ 守り、育てる

生物多様性のつながりや魅力を**守り**、生きものと人が共生しながら、江東区のかげがえのない水と緑のまちを**育てる**

基本目標Ⅱ 活かし、つなぐ

生物多様性の恵みや自然の働きを大切に**活かし**、江東区の歴史と文化を未来に**つなぐ**

基本目標Ⅲ 知って、変わる

生物多様性の価値や大切さを**知って**、こどもから大人まで協力しながら、地球環境に配慮する行動に**変わる**

評価指標	現状値	目標値
自然共生サイト認定数(件)	2件	4件
現地調査にて確認した在来種・特定外来生物の確認種数	本編 表4-2	在来種 : 増加 特定外来 : 減少 生物
緑被率(%)	21.01%	22.0%※1
区民・事業者による新たな緑化面積(m ²)	91,048m ²	毎年度実績管理
公共建築物等における木材利用推進の運用(累計)	26施設	29施設※2
食育に関心がある人の割合(%)	67.8%	90%
雨水流出抑制対策量(m ³)	8,248m ³	毎年度実績管理
生物多様性の内容を知っている区民の割合(%)	39.8%	70%※2
エコリーダー養成講座修了者数	448人	610人
環境に配慮した行動に取り組む区民の割合(%)	66.8%	77%
事業系廃棄物の再利用率(%)	72.4%	74.5%

※1「江東区みどりの基本計画(後期)(令和7年度から令和11年度)」に基づき、令和11(2029)年度を目標としています。令和12(2030)年度以降は、新しい計画に基づき取り組みます。
 ※2「江東区長期計画(後期)(令和7年度から令和11年度)」に基づき、令和11(2029)年度を目標としています。令和12(2030)年度以降は、新しい計画に基づき取り組みます。

生物多様性の保全への取組

江東区には、区立公園や小学校等のビオトープ(ポケットエコスペース)以外にも、猿江恩賜公園内の生物多様性に配慮した池や緑地、清水建設(株)の「再生の杜」や(株)フジクラの「木場千年の森」のような事業者のビオトープ、武蔵野大学キャンパス内のビオトープ等があります。

このような生きものの生息・生育する場所が増えると、生きものの移動や分散が自由に行われるようになり、生物多様性の保全がより進められます。

これらのビオトープ等は、各主体の努力により、地域と連携した自然環境の保全が図られており、様々な主体の連携・協働が重要となっています。

以下の3つのビオトープは、様々な認証や選定を受けています。

- 猿江恩賜公園：「多様な生物が生息する都立公園」の対象公園に選定
- 再生の杜(清水建設(株))：自然共生サイト、江戸のみどり登録緑地、ABINC認証事業所
- 木場千年の森((株)フジクラ)：自然共生サイト、江戸のみどり登録緑地



【出典】再生の杜・木場千年の森：環境省ウェブサイト「自然共生サイト」
 清水建設株式会社・株式会社フジクラ 写真提供
 都立猿江恩賜公園：アメニス東部地区グループウェブサイト「TOKYO EAST PARK「猿江恩賜公園」」

2 施策の方向性と行動計画

	施策の方向性（目指すべき方向性）	行動計画（具体的な取組事業）	
I 守り、育てる	I-1 江東区における生物多様性の保全及び拡大	ポケットエコスペースの維持管理 等	 ポケットエコスペースの維持管理
	I-2 江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化	緑地の維持管理・整備 等	
	I-3 生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進	外来種の情報把握・発信・防除対策 等	 特定外来生物 ナガエツルグケイトウ
	I-4 生きものとの共生社会の実現	飼育困難な動物の相談支援 等	
	I-5 多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信	区民や民間団体等の協力による生物調査 等	 環境調査の実施
II 活かす、つなぐ	II-1 生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進（供給サービス）	公共施設における木材の利用促進、食育の推進 等	 多摩産材のベンチ
	II-2 防災・減災や景観形成等に寄与するNbSの推進（調整サービス）	緑化指導、雨水流出抑制対策指導 等	 自然観察会
	II-3 地域の自然資源を活かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承（文化的サービス）	自然観察会の開催、森林再生ツアーへの参加 等	 生物多様性フェア
III 知って、変わる	III-1 生物多様性の理解促進	イベントやSNS等による生物多様性の情報発信 等	 エコリーダー養成講座
	III-2 あらゆる主体の連携・協働による取組の推進	生物多様性に関する会議体の実施 等	
	III-3 生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材育成の促進	ポケットエコスペースを活用した学校教育 等	
	III-4 日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進	5Rの推進についての普及・啓発 等	

【出典】江東区「ポケットエコスペースパンフレット」、江東区ウェブサイト「多摩産材の積極的な利用について」、NPO法人ネイチャーリーダー江東ウェブサイト「【9/13開催】秋の虫さがし」、江東区ウェブサイト「エコリーダー養成講座2024初級編」「持続可能ジモトアクション」

戦略の推進



1 進行管理

PDCAサイクルによる適切かつ持続的な進行管理を行うことにより、2050年将来像の実現及び2030年目標の達成に向けて、生物多様性の保全や取組の状況が現状よりも螺旋状に向上（スパイラルアップ）していくことを目指します。

また、毎年度、進行管理を行う会議を開催し、計画の進捗状況について基本目標及び各取組内容を評価・点検し、課題の抽出を行います。更に、会議体では抽出した課題に対する解決方法の提案等を行います。

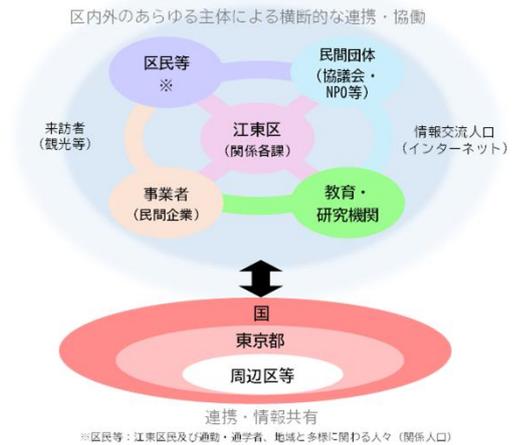


おわりに 生物多様性を守るために私たちができること

1 推進体制

江東区生物多様性地域戦略の推進や目標の達成は、江東区だけの取組や努力だけでは実現できません。

江東区の関係各課に加えて、区民等、民間団体、教育・研究機関、事業者等を、主な取組主体として位置付け、各主体だけでなく国（国土交通省、環境省等）や東京都、周辺区等と横断的に連携・協働・情報共有しながら取組を推進していきます。



2 私たちができること ~チェックリスト~

I 守り、育てる

区民等

- 自然の保全や外来種の防除、生きもの調査の取組に参加します。
- 自宅の庭やベランダ等で在来種を用いたビオトープをつくります。
- ペットは最期まで飼育し逃がさないようにします。
- 生きものをむやみに採取しないようにします。

事業者

- 多様な主体と連携し、社員参加による自然の保全活動を行います。
- 水辺や緑地の開発を極力避けるとともに、在来種を用いる等の生態系に配慮した水辺や緑地の創出、生きもの調査を行います。
- 物流に伴い侵入する外来種は監視や防除等の水際対策を強化します。

民間団体

- ポケットエコスペース等の継続的な維持管理や生きもの調査に参加します。
- 多様な主体と連携し、区民参加の自然の保全や外来種の防除、生きもの調査のイベントを企画します。

教育・研究機関

- 自然の保全や外来種対策に関して、専門的な立場から助言します。
- 身近な生態系やその効用、エコロジカルネットワークの創出・保全に関して、調査・研究を行い、研究成果を広く発信します。

国・都

- 生物多様性に配慮した公園管理や整備を推進します。
- 河川等の水辺環境の保全・改善や、堤防法面や護岸等の緑化を推進します。
- 藻場の保全・創出を推進します。
- 港湾施設や都立公園等において外来種の水際対策や防除を行います。

II 活かし、つなぐ

区民等

- 江戸東京野菜や花見等の自然に関わる歴史・文化を体験し、理解を深めます。
- 自然観察会や区民農園の農体験、森林再生ツアー等に積極的に参加します。

事業者

- 木材の活用や生物多様性に配慮した農林水産物の購入を積極的に行います。
- 雨水浸透貯留や生物多様性の向上につながるグリーンインフラを整備します。

民間団体

- 公園やポケットエコスペース、コミュニティガーデン、区民農園等を環境教育、自然体験の場として活用し、地域コミュニティの活性化を図ります。

教育・研究機関

- グリーンインフラや都市農業が発揮する多面的機能、自然体験等と生物多様性の保全の関係性、自然の保全と利用の両立について、調査・研究します。

国・都

- 優良なNbSの取組事例等を「Tokyo-NbS アクション」として発信します。
- 東京都版エコツーリズム等、生物多様性に配慮した観光振興を推進します。

おわりに 生物多様性を守るために私たちができること

Ⅲ 知って、変わる

区民等

- セミナーや講座、自然体験に参加し、生物多様性の重要性について学びます。
- 環境認証商品や生物多様性に配慮した商品を積極的に購入します。
- 家庭ごみの削減や節電、公共交通機関の積極的な利用等、環境に配慮します。

事業者

- 自社の生物多様性に配慮・貢献する取組のTNFDに基づく情報開示を行います。
- 社員が環境教育イベント等に参加し、生物多様性に関する理解を深めます。
- サプライチェーンにおいて、生物多様性に対する負の影響を低減する取組に加え、生物多様性を回復させる取組を進めます。

民間団体

- 多様な主体と連携・協働して生物多様性フェア等のイベントの開催や積極的な情報発信、意見交換を行います。
- インターンを積極的に受け入れる等、次世代の環境人材育成を行います。

教育・研究機関

- 将来を担う次世代に対して、生物多様性の重要性や持続的な利用への理解を促すとともに、身近にある生物多様性の価値についても発信します。
- 学校・園庭ビオトープ等を活用した環境教育や、園児・児童・生徒とともに身近な保全活動を行います。

国・都

- 持続可能な「消費・生産」について検討するとともに、プラスチックごみや食品ロスの削減による生物多様性への負荷軽減に向けた対策を行います。

3 今ある様々な生物多様性に関わる活動に参加してみましよう!!

知 もっと知って、変わりたい!



環境フェア
【出典】江東区ウェブサイト「第18回江東区環境フェア」



生物多様性フェア



自然観察会
【出典】NPO法人ネイチャーリーダー江東ウェブサイト「[9/13開催] 秋の虫さがし」



生きもの展
※2025年の実施状況
【出典】公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 東大島文化センター提供写真

活 もっと活かし、つなぎたい!



コミュニティガーデン活動
【出典】江東区ウェブサイト「コミュニティガーデン～みんなで楽しむ「地域のお庭」」



田んぼの学校
【出典】江東区ウェブサイト「田んぼの学校」



エコリーダー養成講座
※2025年の実施状況
【出典】江東区ウェブサイト「エコリーダー養成講座2024初級編「持続可能ジモトアクション」」



緑地保全ボランティア
※2025年の実施状況
【出典】江東区「ポケットエコスペースバンフレット」



江東区で見られる生きもの



イソヒヨドリ



タヌキ



ニホンスッポン



シヨウリヨウバツタ



ハンゲショウ



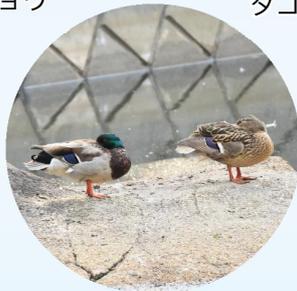
タコノアシ



オオタカ



アシシロハゼ



マガモ



カクベンケイガニ



コガネグモ



コシアキトンボ



ボラ

江東区生物多様性地域戦略

令和8年3月

印刷物登録番号(7)96号

編集発行 江東区土木部管理課
江東区東陽4-11-28
電話(3647)2079